



ヘチマのけしょう水^{すい}は、どうやって作るの^{つく}

ヘチマの水^{みず}を吸い上げる力^{す あ}は、すごい^{ちから}

真夏^{まなつ}のヘチマは、一日^{いちにち}で、おどろくほど、くきがのび、葉^はや実^みが大き^{おお}くなります。ヘチマの根^ねもと近く^{ちか}のくきを観察^{かんさつ}すると、太^{ふと}くてたくましいので、びっくりするでしょう。

ヘチマから作る^{つく}けしょう水^{すい}は、ヘチマ水^{すい}とよばれ、ヘチマの根^ねがすごい勢^{いきお}いで吸い上げ^{す あ}る、水^{みず}から作^{つく}られます。

ヘチマ水^{すい}の作り方^{つく かた}

夕方^{ゆうがた}、ヘチマのくきを、根^ねもとから30センチメートルの所^{ところ}で切り^き、根^ねから続^{つづ}いているほうのくきの切り口^{き くち}を、大きめ^{おお}のびんの中^{なか}にさしこみます。虫^{むし}などが入^{はい}らないよう、びんの口^{くち}のまわりをポリエチレンのふくろなどでおおって、ひもでしばっておきます。

そのまま一晩^{ひとばん}おいて、次^{つぎ}の日^ひの朝^{あさ}見ると、びんの中^{なか}に、かなり^{りょう}の量^{みず}の水^{みず}がたまっているはず^{はず}です。この液^{えき}は、せきが出る^でのをおさえると、おしっこを出^でやすくするはたらきがあり、薬^{くすり}としても使^{つか}われます。

とれたヘチマの水^{みず}に、炭酸^{たんさん}マグネシウムという薬品^{やくひん}を入れて、しばらく置^おいておくと、たんぱく質^{しつ}などの混ざり物^{まもの}が、底^{そこ}に白くしずんできます(しずまなければ、入^{はい}れる炭酸^{たんさん}マグネシウム^{りょう}の量^ふを増^うやす)。この上^うの方^{ほう}の、すんだ水^{みず}の部分^{ぶぶん}を取り出^とし、水^{みず}100ミリリットル^{たい}に対して、エチルアルコール30ミリリットル、グリセリン20ミリリットル、ほう酸^{さん}2グラム^いを入れればでき上がり^あです。たんぱく質^{しつ}などを取り除^とくのは、残^{のこ}っていると、くさりやすいから^{すい}です(薬品^{やくひん}は薬局^{やくきょく}で売^うっています)。

ヘチマ水^{すい}をとるには、根^ねもとを切^きるため、ヘチマはかれてしまいます。実^みをとりた^みいときは、少し^{すこ}実^みをとった後^{あと}で、ヘチマ水^{すい}作り^{づく}をしましょう。(監修・矢野 亮)

